

①基本事項

計画コード		22081	事業名		個の学び支援事業(小学校)		
事業手法		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					
施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目目	会計	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実				款	10:教育費
	施策の方向	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進				項	02:小学校費
	重点プロジェクト	04:「未来へのトビラ」プロジェクト				目	01:学校管理費
事業期間		H 20 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等		-		

②事業概要(P)

事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
特別な支援を必要とする児童が増加しており、医療行為や別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、児童の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。	小学校の特別支援学級に在籍する児童および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。	各学校の状況に応じて、介助員、生活支援員、学習生活相談員、看護師を配置する。

③事業の実施状況(P・D)

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		○介助員の配置 ○生活支援員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置	
活動実績 (計画通り実施できたか)		特別な支援を必要とする児童が安心して学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。 ○介助員:9小学校 36人配置 ○生活支援員:2小学校 2人配置 ○学習生活相談員:8小学校 8人配置 ○看護師:1小学校 2人配置		特別な支援を必要とする児童が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員等を適切に配置した。 ○介助員:10小学校 42人配置 ○生活支援員:2小学校 2人配置 ○学習生活相談員:8小学校 8人配置 ○看護師:1小学校 2人配置					
計画額	事業費	国・県支出金	80,200千円	73,900千円	82,200千円	82,550千円	82,700千円	81,300千円	
		地方債	1,300千円	1,125千円	1,300千円	1,200千円	1,300千円	650千円	
		その他		0千円		0千円			
		一般財源		0千円		0千円			
			78,900千円	72,775千円	80,900千円	81,350千円	81,400千円	80,650千円	
決算額	事業費	国・県支出金		72,161千円		81,995千円			
		地方債		1,125千円		1,101千円			
		その他		0千円		0千円			
		一般財源		0千円		0千円			
				71,036千円		80,894千円			
①期間内計画額(R4-7)		326,400千円		②期間外計画額(R8-)		0千円	①+②総計画額		326,400千円

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	82,550千円
次年度への繰越額	0千円

	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	介助員の配置率	教育支援委員会の判定に基づく介助員数に対する配置率	成果	%	計画値	100	100	100	100
					実績値	92	98		
	支援情報の引継ぎの割合	個別の指導計画等を作成し引継ぎができていない児童の割合	成果	%	計画値	100	100	100	100
					実績値	100	100		
	学校生活の満足度	学校満足度調査における支援を必要とする児童の保護者の満足度	成果	%	計画値	92	92	93	93
					実績値	91	93		

⑤ 成果 (C)		事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	特別な支援を必要とする児童の個々の状況に合わせて、特別支援学級に在籍する児童には介助員又は看護師を、特別支援学級以外に在籍する児童には生活支援員又は学習生活相談員を配置し、必要な支援やサポートを行うことにより、各児童が安心安全に学校生活を送ることができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
小学校の特別支援学級に在籍する児童 および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする児童が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	特別な支援を必要とする児童が増加する中、多様な学びの実現に向けた支援の必要性は高まっており、教育支援委員会での判定や学校からの要望も踏まえた上で、介助員等を適切に配置するとともに、小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通した、切れ目のない支援を行うための体制を構築する必要がある。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 教育支援委員会において個々の児童の実態を把握し、必要な支援を検討し、継続的な支援を行う。多様な学びに対応するために必要な人材を確保し、特別支援学級在籍児童だけでなく、不登校児童や外国にルーツをもつ児童を含めた様々な児童に対する支援を行う。	令和7年度以降で対応するもの 切れ目のない支援を行うため、介助員、生活支援員等の人材確保に努める。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏